

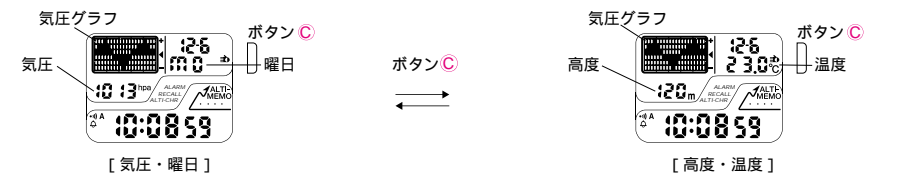
### こんな特殊な表示にご注意ください(通常のご使用には関係ありません)

- 時刻・カレンダー合わせ状態で、操作している要因のような状態になる場合があります。(ボタンCとボタンDを同時に押した場合) この表示は点検の際に利用するもので、故障ではありません。ボタンB、C、D、Eのいずれかを押して時刻カレンダー合わせ状態に戻してください。

### 時刻・カレンダー表示での気圧・高度・温度について

- 時刻・カレンダー表示には、気圧、高度、温度等が表示できます。これらの数値は、表示の一部を切り替えて表示します。(「数値の選択のしかた」を参照)
- 気圧について
  - 気圧を1hPa単位で450hPa~1,050hPaの範囲で計測表示します。
  - グラフタイプに5日間分の気圧の変化をグラフとして表示しています。
  - 計測は10分間隔で行います。
  - 気圧は「気圧・曜日」を選択したとき表示されます。
  - 高度について
    - 高度を5m単位で、-300m~+6,000mの範囲で計測表示します。
    - 気圧から高度を算出していますので、気圧と同じく10分間隔で計測表示します。また、気圧配置の関係で高度を補正する場合があります。(「高度補正のしかた」参照)
    - 高度の数値は「高度・温度」を選択したとき表示されます。
  - 温度について
    - 温度を0.1単位で-20~+50の範囲で計測表示します。
    - 計測は1分間隔で行います。
    - 温度は「高度・温度」を選択したとき表示されます。

- 【数値の選択のしかた】
  - 時刻・カレンダー表示で、「曜日」「気圧」「高度」「温度」は一括表示できません。
  - 下図のように表示一部を切り替えて表示しますので、必要に応じ選択してください。時刻・カレンダー表示にてボタンCを押すことで選択ができます。



### 気圧グラフの読みかた

- 6時間毎の約5分の気圧変化をグラフィックに表示します。
  - この上昇下降傾向から、今後の変化傾向や天気予報の一端となります。
- 約5日間のデータ
- 
- 1日4回6時間毎に気圧変化を上記3つのドット(点・マーク)で表示します。たとえば、上記グラフのa~cはそれぞれ次のように読みます。
- 気圧が上昇しつつあったことを表します。(+3のデータ)
  - 気圧が下降しつつあったことを表します。(-3のデータ)
  - 比較対象として気圧がなかったことを表します。(+1のデータ)
- 上下のドット数はその変化の度合いを示すものです。

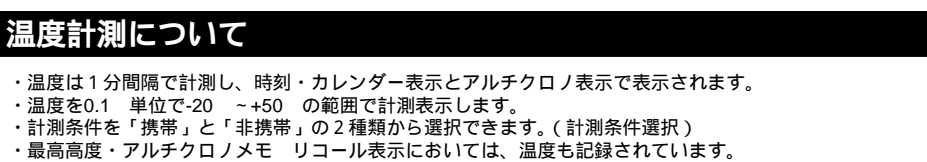
- 【気圧グラフについて】
- 気圧グラフは気圧値そのものを示すものではありません。あくまでも気圧の変化の度合いを示すもので、6時間に1回その間の気圧変化をグラフに表したものです。
  - 高度(標高)の変化する移動に伴う気圧変化は、自動的に補正しますので、移動による気圧変化はグラフには表われません。

### 高度補正について

- 高度は気圧をもとに算出していますので、気圧の変化とともに高度の数値が変わってしまいます。同じ高度(標高)にいても、気圧は毎日(場合によっては1日の中でも)変化しています。表示数値を、標高(標高)に近づけるいわゆる「高度補正」を行います。
- アルチメトリノ表示で表示される高度も、ここで行う高度補正が有効です。
- 高度補正のしかた
  - 高度補正のかわかる場所において、ボタンCを押すと、時刻・カレンダー表示にしてください。
  - 高度(標高)の調べかた
    - a) 標高を調べる
    - b) 道路標高または、案内板などの表示
    - c) 上記などの情報から自分のいるところの高度を推測する。
- 気圧グラフの下に高度が表示されていない場合は、ボタンCを押して高度を表示させてください。
- 【高度・温度】を選択しておきます
- ボタンCまたはボタンDを押して、この場所の高度を合わせてください。
- ボタンC：1回押すごとに5メートル増えます。(＋5m) 押し続けるごと早く増えます。
- ボタンD：1回押すごとに5メートル減ります。(－5m) 押し続けるごと早く減ります。

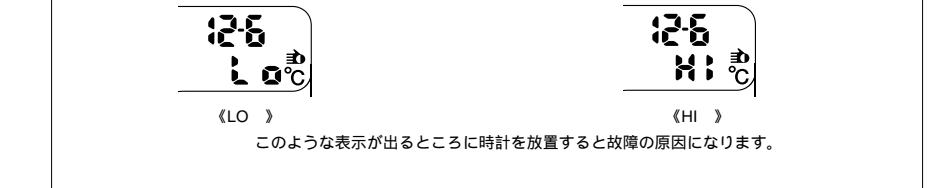
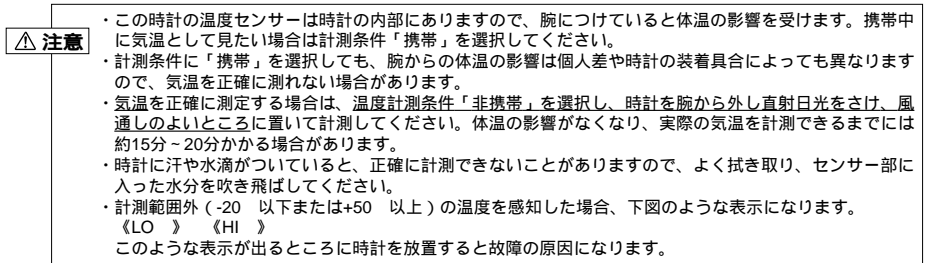
### 時刻・カレンダーの合わせかた(サマータイムの選択)

- どの表示からもボタンAを引き出すことで、時刻・カレンダー合わせ状態になります。例：時刻・カレンダー表示からの操作
- ボタンAを引き出す
- ボタンCを押して合わせたい箇所を点滅させ、ボタンDで合わせます。
- ボタンCを押すたびに点滅箇所が変わります。
- ボタンDを押して合わせたい箇所を点滅させ、ボタンDで合わせます。
- ボタンDを押すたびに点滅箇所が変わります。



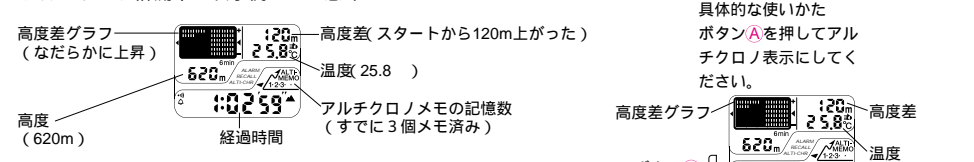
### 温度計測について

- 温度は1分間隔で計測し、時刻・カレンダー表示とアルチメトリノ表示で表示されます。
  - 温度を0.1単位で-20~+50の範囲で計測表示します。
  - 計測条件を「携帯」・「非携帯」の2種類から選択できます。(計測条件選択)
  - 最高高度・アルチメトリノメモ リコール表示においては、温度も記録されています。
- 【温度計測条件の選択のしかた】
- 腕に装着している場合は、体温の影響を受けやすいため、実際の気温とは異なる数値が計測表示されます。
  - 腕からの体温の影響をある一定の責任でその影響を加味した値を計測温度として表示できます。これを「携帯」となります。
  - 時刻・カレンダー表示においてボタンDを2~3秒押し続けてください。



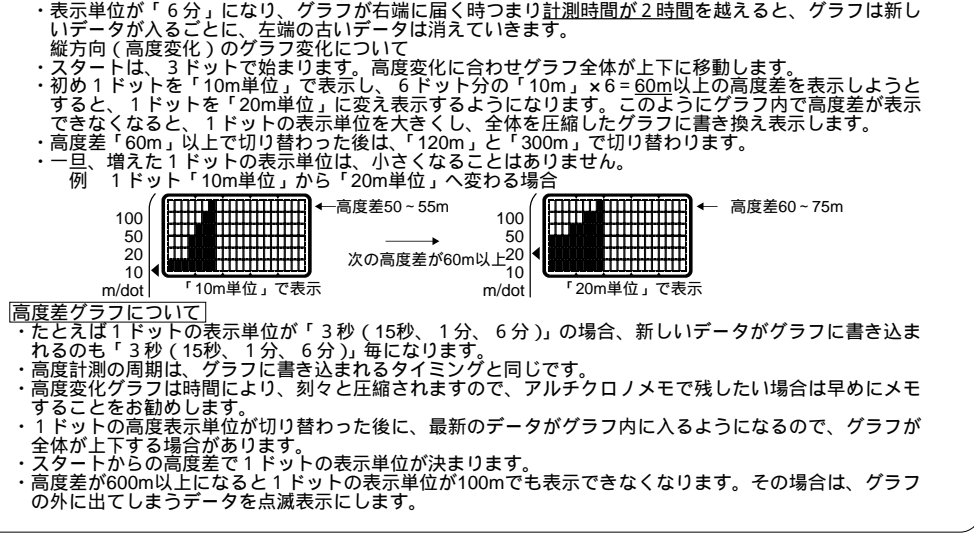
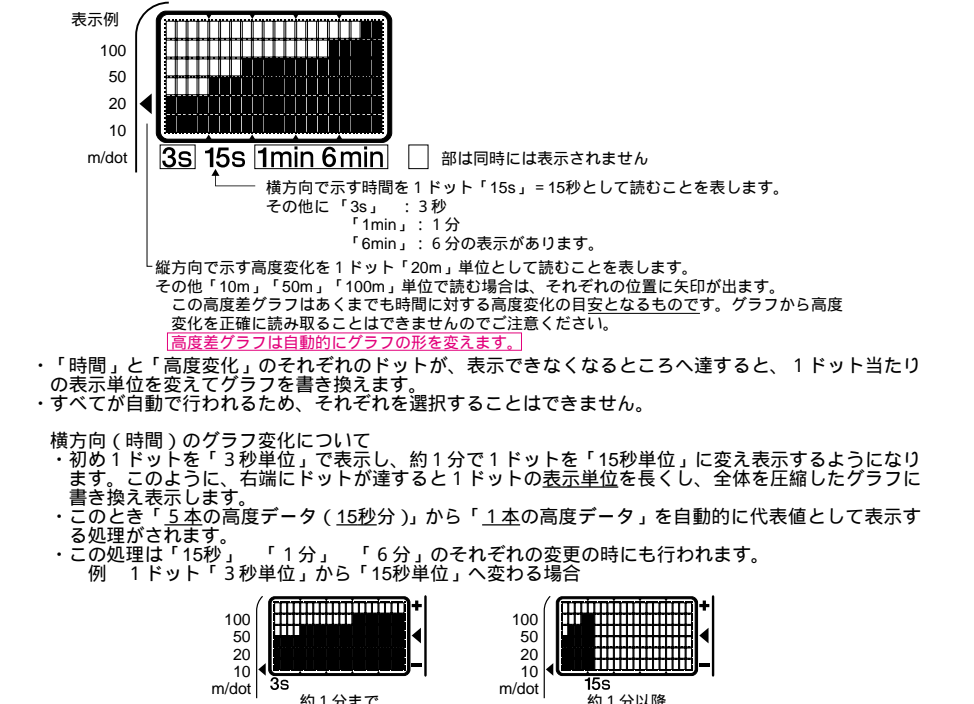
### アルチメトリノの使いかた(高度差、高度変化グラフ)[ALTI-CHR]

- スタートからの経過時間と高度差を計測表示します。(5m単位最大+6,300m)
- 経過時間は、1/100秒単位で1時間まで計測表示し、それ以降は1秒単位で30時間まで計測します。
- 高度は「現在の高度」と「スタートからの高度差」を5m単位で計測表示します。
- 計測開始直後約3秒から15秒、1分、6分を自動的に変わります。
- 高度の変化をグラフ表示します。グラフは縦軸で高度変化を示し、横軸で経過時間を示します。
- グラフは縦横方向とも自動的に圧縮されるようになっていきます。
- 単位は、1単位で、-20~+50まで計測できます。計測時間間隔は1分です。
- ここで、計測したデータをメモとして記録できます。(最大5個)
- 自動的に設定される計測タイミング以外に高度計測を行う機能もあります。



- 【リセットのしかた】
  - 計測中やストップ状態の場合は、次の操作でリセットしてください。
  - 計測中の例
  - ストップ状態
  - ボタンB (ストップ)
  - ボタンC (スタート/ストップ(再スタート))
  - ボタンD (計測中は高度即計測)
  - ボタンE (ストップ状態はアルチメトリノメモ)
- 計測をスタートする場所のリセット状態を確認して、ボタンCを押してスタートしてください。
- 操作の流れ
  - 例1. スタート(ボタンC)、ストップ(ボタンC)、リセット(ボタンD)、リセット(ボタンD)
  - 例2. スタート(ボタンC)、ストップ(ボタンC)、アルチメトリノメモ(ボタンD)、リセット(ボタンD)

- 【計測中のボタンD操作について】
- 高度計測の時間間隔は計測時間と共に長くなります。よって計測タイミングを待たずに今高度知りた場合は、ボタンDを押してください。高度計測をして高度を表示します。ただし、高度差グラフには表示しません。
  - 高度補正について
    - 現在高度を補正する場合は、時刻・カレンダー表示に戻り、高度補正をしてください。計測中に高度補正をした場合、補正した高度がそのまま高度差に加算されます。(「高度補正のしかた」を参照)
    - 計測を終了した場合は、ストップ(ボタンC)、リセット(ボタンD)してください。
    - アルチメトリノメモとして残したい場合は、リセットをする前にボタンDを押してください。(「アルチメトリノメモのしかた」を参照)
    - 高度変化グラフの読みかた
      - 縦方向：を上向き「縦方向」で、「時間」を左右の「横方向」で表示します。
      - グラフは計測時間と高度により、自動的に変化します。
      - 高度変化は1ドット当たり「10m」「20m」「50m」「100m」単位の4種類の表示方法で、グラフの縦方向に表示します。
      - 時間は1ドット当たり「3秒」「15秒」「1分」「6分」単位の4種類の表示方法で、グラフの横方向に示します。
      - 最大2時間分のグラフを表示できます。



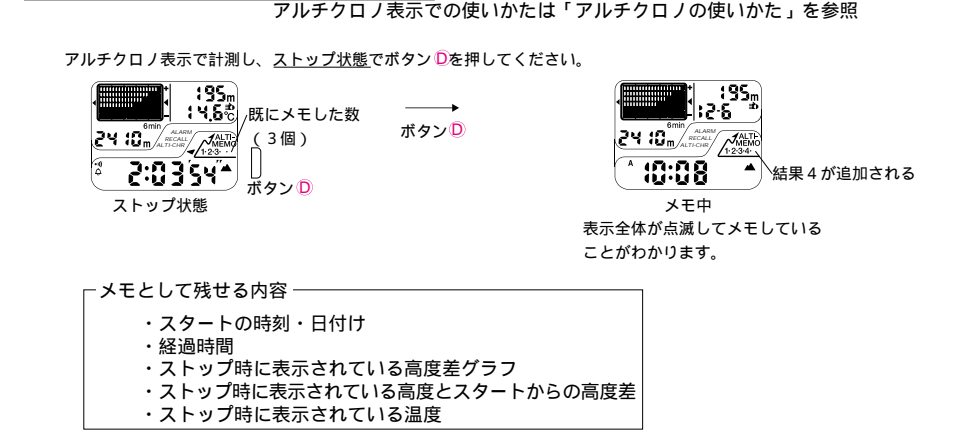
### 気圧・高度計測に関する注意事項(時刻・カレンダー表示/アルチメトリノ表示)

- 気圧を計測して高度を算出する関係で、気圧に関わる環境は高度にもその影響がでるとお考えください。
- 気圧は気圧配置(天気)の変化と同じようにも変化します。よって高度差を標高と同じ数値として表示させるには、高度(標高)の分かる場所や高度補正を行ってください。
- 旅行時や登山中などの山に上るときは、雨や湿度による湿度変化が大きい場所では正しく気圧および高度が計測できない場合があります。
- 現在高度が「Lo m」「HI m」「m」を表示するとき高度差の計算ができなくなりますので、高度差は「...m」表示にしてください。
- 気圧計測値が450~1050hPaの範囲を超え、範囲外の気圧を感じた場合、次のように表示します。「既測定」 「Lo m」「HI m」
- このような気圧値を感じた場合は、高度数値が「...m」となります。
- 水中あるいは、水圧がかった場合などは、気圧がより高度が正しく計測できません。異常な数値を示す場合がありますが、気圧の値が正確でなく、次の計測結果と表示は、水の影響により「HI mPa」などの表示がある場合があります。水分をよく拭き取り、センサー部付近の水滴を吹き飛ばしてください。
- 特に水圧や水の影響が考えられない場合であっても、気圧値が下底の湿度を吹き飛ばす可能性がありますので、「既測定」 「Lo m」「HI m」を7秒以上押し続けます。
- 「Err HPa」「Lo HPa」「HI HPa」「...m」表示になります。また、高度は高度補正によっては「Lo m」「HI m」を点滅させることができなくなります。異常かどうかの判断は、気圧値で行ってください。
- アルチメトリノ計測中に高度補正をした場合、その補正が高度差となって表示されます。
- センサー部に入ってしまった砂の異物は異音で気づいてください。水の中に入れて洗ってください。洗いきれない場合は、「販売店」または「サービスセンター」にご相談ください。
- センサー部にガリノリ「アルゴリズム」などの異音が発生すると、故障の原因になりますのでご注意ください。
- 高度差および高度差の計測は、0~+40の範囲で表示されます。

- 気圧値の調整のしかた
  - 気圧値がズレていると考えられる場合、ボタン操作によって調整することができます。しかし、気圧計として信頼のおける他の測定器がある場所以外では、絶対に実行しないでください。
  - 【時刻・カレンダー表示】においてボタンAを引き出し、時刻・カレンダー合わせ状態にします。
  - ボタンBを押し続ける。気圧値が点滅し、調整状態になります。
  - ボタンCとDを押して調整します。ボタンC：1HPa増えます。ボタンD：1HPa減ります。
  - 調整が終わったら、ボタンCを押してください。その時ボタンAを押し出さずに行ってください。
  - 調整が終わった後、ボタンCを押してください。
    - ※1 気圧調整状態で1~2分ボタン操作がない場合、【時刻・カレンダー合わせ】に戻ります。
    - ※2 この気圧調整状態は、電池交換時にキャンセルされます。

### アルチメトリノメモのしかた[MEMORY]

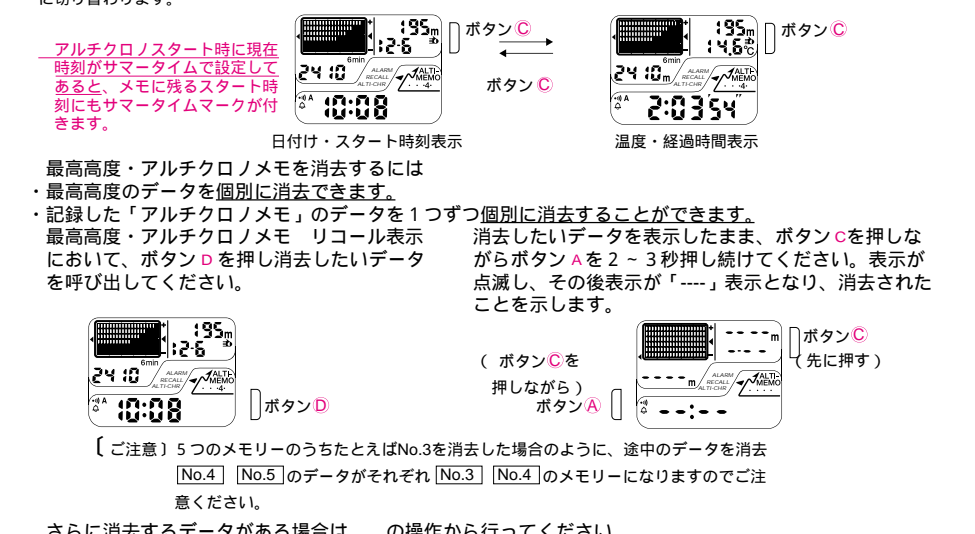
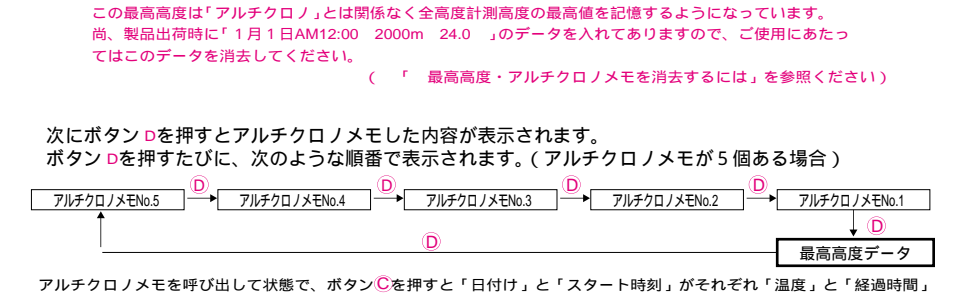
- 高度差グラフ、現在高度、高度差、温度、経過時間、スタート日付け・時刻などがメモリーできます。
- アルチメトリノ表示で計測表示した高度差グラフなどを、アルチメトリノメモとして残すことができます。
- アルチメトリノメモは最高高度・アルチメトリノメモ リコール表示で呼び出されるようになります。



- 【アルチメトリノメモについて】
  - ストップ状態のときのみ、アルチメトリノメモが可能です。
  - 最大5個までのメモリーが可能です。それ以上メモリーすると一番古いデータから消去されます。
  - ストップ状態からリセットしてしまうとアルチメトリノメモはできなくなります。
  - アルチメトリノメモをした後、ボタンDのメモ操作が可能なため、まったく同じメモが入ってしまうのでご注意ください。
  - 高度グラフは経過時間により刻々と圧縮されます。また、2時間経過後は新しいデータが入るたびに古いデータが消えていきますので、早めにアルチメトリノメモすることを勧めます。
  - 現在の時刻の設定でサマータイムを選択してあると、メモに残るスタート時刻にもサマータイムマークが付きます。

### 最高高度やアルチメトリノメモの内容を見たいとき[RECALL]

- 自動的に記録された最高高度をみることができます。
- アルチメトリノメモをとった内容を呼び出してみることができます。
- ボタンAを押して、最高高度・アルチメトリノメモ リコール表示にしてください。まず「最高高度」の表示がでます。
- ボタンCを押すごとに「日付け」と「温度」が切り替わります。
- ボタンDを押すと「日付け(または温度)」と「記録時刻」が切り替わります。



### アラームの使いかた(デリーアラームと時報の設定)[ALARM]

- 1日に1回鳴るアラームの設定ができます。(24時間に1回) 時報をセットすることもできます。
- アラーム時刻の合わせかた
  - ボタンAを押してアラーム表示にします。このとき、ボタンBを押すたびにアラーム時刻の点滅し、アラーム時刻合わせ状態になります。
  - ボタンCを押して合わせたい箇所を点滅させ、ボタンDで合わせます。
  - ボタンBを押し続けるると早く減ります。
  - アラーム時刻を合わせる自動でアラームが点灯します。
  - ボタンDを押し続けるると早く減ります。
- アラーム時刻を合わせ終わったら、ボタンBを押してアラーム表示に戻してください。
- アラーム時刻合わせ状態で1~2分ボタン操作がない場合、時刻アラーム表示に戻ります。
- アラームセレクト時刻になると、アラームが20秒鳴ります。
- 現在時刻の選択が「標準」・「サマータイム」のどちらでも、表示している時刻とアラーム時刻が一致するとアラームが鳴ります。

